

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第79回放送の概要 (2014年4月26日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)
アコ (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
いっちゃん (一ノ瀬悟)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供するペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046) の御協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1): 岩原直子さん (兵庫県神戸県民センター 県民交流室 室長補佐 (連携調整担当)、山口昭彦さん (県民交流室 室長補佐兼県民課長))

岩原さんは生粋の播州人で、大河ドラマ黒田官兵衛の父職隆のお墓のある地域である、姫路市飾磨区妻鹿出身です。

県の組織である県民局や県民センターは、兵庫県庁の地方事務所で、神戸市の場合でいうと区役所にあたる位置付けです。兵庫県は震災以降多額の借金があるので、予算管理、財政基盤の整備のため、3年に一度行財政構造改革を行い、組織の見直しを行っている。県民局の中で政令市、中核市を持っている県民局については、4月1日に名称を県民センターに変更、神戸県民局は神戸県民センターに変わりました。風通しの良い、効率的な仕事ができるように、これまで県民局にあった3つの組織を1つに集約し、スリム化しました。幹部が5人から3人に減り、風通しのよい組織になりました。これまで連携が必ずしも十分でなかったところの垣根を取り払い、県民センターの目的である神戸市民との対話と協働を達成するため、組織をフラット化しています。

姫路市立灘中学校 (白浜町) 出身。山口さんから見て岩原さんは宝塚の男役の雰囲気を持っている。岩原さんの中学時代をキャラクター的に例えるなら、学ランを着たなめ猫、ビーバップハイスクール、リーゼントの雰囲気であった。女子も引きずるような長いスカートをはき、男子は学ランの襟が顎を切るかと思うほど丈の長い服装の生徒がたくさんいた。岩原さんのスカート丈は、床から20cmほど上であった。その当時は、いい意味ではおおらかであるが、乱雑でちょっと怖い人が多かった。月に1回は気がつく



とどこかの学校の窓ガラスが割れていた。毎日スリリングな日々を過ごしていた。

掃除の時間に時々男子としゃべっていると、上級生から先生のいない所に連れていかれ、お叱りを受け、手の甲に根性焼きをされたこともあった。一度痛い目、怖い目に合うと2度と同じような事は受けられないようにしようという防衛本能が働き、根性焼きを受けた後は上級生から嫌われることはなく、なんとか過ごす事が出来た。今思うと、その時初めて周りの空気を読み取る能力が備わったと思う。上級生の言うことには理不尽な所もあるが、掃除の時間にさぼって男子としゃべっている事は、組織の中ではやってはいけない事でもあると考えるようになった。

高校は親の熱望で、カトリック系の**賢明女子学院**に入学した。制服については、靴はパンダ靴といって白と黒で、靴ひもの辺りがパンダの目のように配置されていた。紺色のベストはボックス型のスカートの中に入れるという変わったユニフォームであった。中学校ではセーラー服のスカートを長めに着ていたが、良家の子女の多い学校でもあったので、高校の制服ではスカートを長めに着ることは出来なかった。高校の3年間は宝塚の男役のように、人生で最大のモテ期であった。賢明は中高一貫校で、高校から入学したのは岩原さんの他は1人だけであった。播州人気質の岩原さんが良家の子女の中に入り、かなり異質な感じてであった。その異端なところがよかったのか「今日のお昼は私とお弁当を食べませんか」とか、「一緒に学食に行かせて下さい」と言ってくる後輩が沢山いた。



制服（賢明HPより）

播州の秋祭りは、高砂から赤穂のあたりまで色々あるが、基本は、瀬戸内に面しているところが五穀豊穡を祈願して行われている。**灘のけんかまつり**は、その中でも荒っぽい祭りとして有名で、例年10月14、15日に行われている。伝統と格式があるので、女子は祭りに直接参加出来ず、男子が気持ちよく屋台を担げるように料理を作ったり、接待するのが本来の役目であるが、岩原さんは小さいころからその役目を放棄し、父親や彼氏のいる屋台について歩いていた。

2. ミュージックコーナ：永遠の嘘をついてくれ（吉田拓郎さん）

中島みゆきさん作詞・作曲の「永遠の嘘をついてくれ」は、歌っているのは吉田拓郎さんですが、中島みゆきさんも歌っています。2006年のつま恋コンサートのビデオを見て、とてもいい曲、特に歌詞がいいと思いました。



つま恋コンサート 2006

3. ゲストコーナ（2）

岩原さんにとって**灘のけんかまつり**の楽しみ醍醐味は、小さい頃は祭りは当たり前のようにあったが、神戸に引っ越してから実家に戻った時にしみじみ思うのは、地域を結ぶ大きな核であるということです。祭りがなければ中学校、小学校、幼稚園の同級生に出会う事がなく、祭りがあるからこそ、みんな当たり前のように同級生と出会い、昔話が出来る。祭りの活性化についても話が出来る。そのような繋がり大きな核と思う。地域によっては若い人が集まらず、祭りを続けるのが難しいところもでてきているが、けんかまつりは、しっかりした組織（八幡神社総代会）があるので、ここが中心になってPRし、広告主が集まり、企業の協賛金が集まり、収入があると人はある程度集まってくる。同級生たちは祭りには基本的に戻ってくるので、その形が残っている限り衰退はないと思っている。実際に祭りを見たい

と思っても棧敷席は高額で、地元優先のため地元には空きが出ない限り無理のようです。前列の席は一人座る程度のサイズで2万円だそうです。



岩原さんの実家の浜本家は、市場の仲買人で、両親以外も一族郎党、材木屋、八百屋など殆ど商売人で、ワンマンの社長が多いが、組織の中で仕事をしている人は誰もいなかった。岩原さんは「ザ組織」で仕事がしたかった。組織の中で、自分がどのように能力を発揮していくのかがやってみたかった。国家公務員は特定の分野に偏るため、色んな分野の仕事がやりたかったので、神戸市役所にくらべ活動範囲の広い兵庫県庁を選んだ。

最初の勤務地は姫路県税事務所で、楽しく仕事をする事が出来た。法人事業税、個人事業税の課税業務を担当し、徴収事務も行った。国税の確定申告の手伝いもし、税全般に携わる機会を得、初めての分野の仕事であったので、自分にとって知識になったという意味で面白かった。県税のプロの上司が沢山おり、上司が講師になって簿記の勉強会を開き、確定申告の書き方など生活に密着したことを教えてもらった。自分が学べる事で人に還元出来た。また延滞金などの徴税に先輩と個別訪問も行い、そんなに金が欲しいのかと言って金を投げつけられたこともあった。

芸術文化課で仕事を始めた当時は、山口昭彦さんが所属する西宮の芸術文化センターが立ちあがって1年目であった。岩原さんが兵庫県下の芸術文化団体に補助金を交付する立場、山口さんが芸術文化センターで仕事をする立場であった。岩原さんのメインの仕事は、2年前に完成した横尾忠則現代美術館の立ち上げに3年間携わったこと。原田の森ギャラリーの西館を改装したもので、構想の段階から携わった。山口さんは、芸文センターで多くの有名人を見てきた経験から岩原さんを見ると、一種独特のオーラを持っている。初めて会った時は“ひまわりのような明るい人”と思った。難しい話をしゃべりつつ、何分かに1回は笑いをとるところがすごい。芸能人や芸術家を多く見てきた山口さんは、成功する

人は“確かな芸術の技術”を持っている上に、それをどうお客さんに伝えるかの勘を持っている。岩原さんは県庁のわかりにくい仕事を、市民にわかりやすく笑いを取りながら話している。



横尾忠則現代美術館

内閣府男女協働参画局に2年間出向していた時は、第3次男女共同参画基本計画の改定時期で、この時期は自民党政権から民主党政権に変わった時でもあり、国の法定計画の策定に、初めから最後まで携わる事が出来、勉強になった。民主党政権になり、もっと女性が参画できる具体的数値を盛り込んだ計画を作ろうと言う考え方に変わった。大きく変わった点は、女性登用率（会社役員、行政の課長クラス以上）を2020年に30%以上をめざし、中間目標値や様々な分野での具体的目標値が初めて作られた。この法定計画のフロントランナーとして、まず行政がこの目標達成に動く必要があり、行政の成功事例を見て企業も追従出来ることになる。しかし社会経済がうまく動いていない時に女性の登用を叫んでも、難しいところがある。今年度は4次計画の策定時期でどうなるかわからないが、一度出た目標がころころ変わることはないと思われる。アベノミクスなど自民党の色が出てくるかもしれない。

本年度は震災20周年になるので、兵庫県は**阪神淡路大震災20周年記念事業**を展開している。県の大きな取り組みの一つは、地域の皆さんが取り組んでいる防災減災活動に支援する補助金を拡充していることです。この制度を是非活用してほしい。FMわいわいは神戸市と防災協定を結んでいると思うが、FMわいわいのメンバーが集まり防災訓練をしたり、避難マップを作ったような場合は申請すれば、対象経費が15万円以内の場合全額支給される。いま震災を知らない人が4割を超えているので、震災経験を風化させないように、我々が学んできた事を20年目を節目として引き継いでいきたいので、新たな防災減災活動にこの補助金を使っていただきたい。神戸県民センターとしても、今後共積極的に取り組んでいきます。

4. 地域瓦版

4月26日～5月6日（4月29日～5月2日は除く）、**インフィオラータ（花をしきつめる）神戸2014**が開催されます。道路や広場に花卉で絵模様を描き観賞するイベントです。神戸は今年18回目です。開催場所は三宮東、元町穴門、北神戸、北野坂、マリンピア神戸、神戸ハーバーランドです。

5月10日、11日に**第14回神戸新開地音楽祭**が開催されます。神戸最大の野外音楽祭で、湊川公園、新開地商店街で開催されます。5月10日はゴダイゴのタケカワユキヒデさんが出演します。音楽祭には170以上のグループが出演します。5月11日は新開地まちづくりスクエア前で、69陽会の田邊さんのグループがジャズ演奏します。



ゆかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>